

全日本実業柔道連盟創立五十周年記念

第30回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第30回全日本実業柔道個人選手権大会は、全日本実業柔道連盟五十周年を記念して8月26（

27日の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館において開催された。例年になく残暑厳しい中、男子8階級（体重別7階級と22歳未満の部）の計486名と女子7階級の計83名、合わせて569名のエントリーにより熱戦が展開された。



開会式で挨拶する山口信夫会長

初日の男子は73 kg級で新田雅史5段（27 || 京葉ガス）が堂々の三連勝を飾ったほか、81 kg級は秋山成勲3段（25 || 平成管財）、66 kg級は小室宏二3段（23 || 総合警備保障）、60 kg級は石井一行3段（22 || 塩谷建設）がいずれも初優勝を果たした。また22歳未満の部では植原良太2段（19 || 日本道路公団）が初出場で初優勝を飾った。

女子の48 kg級では実力者の真壁友枝3段（25 || 住友海上）が2年連続4回目の優勝で貫禄を見せたほか、57 kg級は社会人1年目の岡崎綾子2段（22 || ミキハウス）、52 kg級は横澤紗恵2段（23 || タカメディカル）がそれぞれ嬉しい初優勝に輝いた。

最終日は男子100 kg超級で江上忠孝4段（24 || 九州電力）が、昨年に続いてベテラン下出善紀5段（30 || 旭化成）との決勝対決を制し堂々の二連覇を果たした。100 kg級はこれまた昨年と同じ決勝の顔合わせとなったが、宗真一郎5段（28 || 九州電力）が昨年の雪辱を果たし、2年ぶり3回目の優勝。また90 kg級は近藤秀作3段（25 || 日本道路公団）が接戦を制して初優勝を飾った。

女子78 kg超級は柳花美鈴2段（24 || ダイコク）が2年連続で優勝し、63 kg級でも南千草2段（22 || ミキハウス）が同僚対決を逆転で制して二連覇を達成した。78 kg級は新人吉田亜沙美初段（18 || 住友海上）が初出場初優勝の快挙を成し遂げ、70 kg級では中市陽子2段（25 || ミキハウス）が念願の初優勝に輝いた。



全国各地から出場した選手が集う開会式



力強く宣誓する江上選手（九州電力）

男子100kg超級 江上、昨年に続き 下出を破り、堂々の二連覇

昨年の決勝戦の再現となった江上（九州電力）対下出（旭化成）の決勝戦。江上は得意の袖釣込腰で勝ち上がる。一方、今期好調、全日本選手権3位の下出は立って良し、寝て良しの柔道で若手精鋭をすべて一本勝ちで下しての決勝進出。

開始25秒両者指導の直後、江上、下出の両袖口辺りを握り、得意の左釣込腰で担ぐと、下出虚をつかれたまらず横転し有効となる。その後、下出挽回せんと江上を追いつめるが有効な技が出ない。江上は下がりつつ袖釣込腰を仕掛けるも下出余裕をもって残す。単調な攻防が続き1分38秒注意、3分28秒警告が両者に与えられる。

終盤、下出前に出て攻めるが、江上も下がりながらの袖釣込腰で技を仕掛け時間切れとなる。江上昨年に続き強豪下出を下し、二連覇達成。相手に警戒されても攻めきる得意技袖釣込腰の冴えは場内を湧かせた。

準決勝戦には、第27回大会優勝の上水（総合警備保障）を準々決勝において僅差判定で破ったノーシードの横山（日本道路公団）と準々決勝で巨漢安蒜を合せ技一本で下した石崎（日本道路公団）がそれぞれ進出し、初の3位入賞を果たした。



優勝した江上選手
(九州電力)

江上の話 ラッキーな優勝です。下出さんとはこれで3勝2敗ですが、今年は今日本で3位に入られるなどさらに強くなっておられた。相手の釣り手を殺して組みたかったが、十分研究された。自分は袖釣り男と言われるが、他の技もいっぱい持っています。(笑い)

【成績】

優勝 江上忠孝(九州電力)

準優勝 下出善紀(旭化成工業)

第3位 横山勇一(日本道路公団)

第3位 石崎真之(日本道路公団)

▽準々決勝

○江上 優勢勝ち 上本(京葉ガス)

●横山 優勢勝ち 上水(総合警備保障)

○石崎 合わせ技 安蒜(日本中央競馬会)

○下出 合わせ技 金丸(NTT東日本)

▽準決勝

○江上 背負投 横山

○下出 上四方固 石崎

▽決勝

○江上 優勢勝ち 下出

男子100kg級 宗、昨年の雪辱を果たし、3回目の優勝

昨年と同じ決勝対決となった。比較的順当に勝ち上がった宗（九州電力）に対し、小嶋（総合警備保障）は難敵、倉吉（京葉ガス）、湊谷（新日鉄）、窪田（旭化成）を連破しての決勝進出。

小嶋の左に宗の右のけんか四つ。小嶋の内股から小内、大内など連続しての攻めに対し、宗は払腰などで応ずるも互いに効なし。その後双方牽制し合って1分20秒両者に指導、さらに1分45秒には両者に注意が与えられる。ここで宗が一転して攻撃に出る。長身、宗の内股に小嶋の体が大きく浮くが何とかこらえる。2分過ぎ、宗の踏み込み鋭く大外刈に、小嶋たまらず大きく宙を舞って見事な一本。

宗、昨年小嶋に逆転で敗れた雪辱を果たし、平成8年、平成10年に続いていた、2年ぶり3回目の優勝に輝く。素晴らしい気迫のこもった試合ぶりであった。3位には実力者の窪田と新社会人の谷口（日本中央競馬会）がいずれも初入賞。



優勝した宗選手
(九州電力)

宗の話 特に優勝を意識しなかった。もう齢も若くないので一戦一戦大事に戦った。その積み重ねが優勝という結果になった。気疲れが続いたせいで(笑い)、体重が97kgに減ってキレが良くなった気がする。講道館杯でベストを尽くしたい。

【成績】

優勝 宗 真一郎(九州電力)

準優勝 小嶋新太(総合警備保障)

第3位 窪田 茂(旭化成工業)

第3位 谷口繁晴(日本中央競馬会)

▽準々決勝

○小嶋 優勢勝ち 湊谷(新日鉄広畑)

●窪田 優勢勝ち 桑原(九州電力)

○谷口 内股 大森(総合警備保障)

○宗 内股 大下(日本中央競馬会)

▽準決勝

●小嶋 優勢勝ち 窪田

○宗 内股 谷口

▽決勝

○宗 大外刈 小嶋

男子90kg級

近藤、新鋭斎藤を 僅差判定で下し、初優勝

今春国士館大学を卒業し実業団入りした新鋭の斎藤(旭化成)と決勝初進出の近藤(日本道路公団)の決勝戦。

初戦の一本勝ちの後には苦戦して勝ち上がった斎藤に対し、近藤は大外刈り、背負投、払腰の特技を駆使しての決勝進出。序盤戦は近藤の右内股一発を除き組み手争いに終始する。1分9秒両者に指導。その後は両者激しく奥襟を奪い合う攻防戦。2分を迎える頃から斎藤の右払腰が繰り出されるが近藤巧みに捌く。今度は3分過ぎるあたりから近藤反撃に転じ、斎藤受けに回る。しかし斎藤もこれをよくこらえ決定的ポイント奪うに到らず。残り15秒を切つて斎藤、猛反撃に転じるもブザーが響く。互いに明確なポイントがなく旗判定となる。旗は2対1と分かれ、白旗2本上がった近藤に勝利が宣告される。近藤うれしい初優勝を飾る。

準決勝戦には、第1シード有川(総合警備保障)戦不戦勝で3回戦から登場後、尻上がりに調子を上げた新人の廣川(セコム)と、第2シードの秋葉(自衛隊体育学校)を大内刈り一本で下すなど初戦以外すべて一本勝ちで勝ち進んだ前田(九州電力)がそれぞれ進出。いずれも斎藤、近藤に善戦及ばず破れたものの堂々の第3位入賞を果たした。



優勝した近藤選手
(日本道路公団)

近藤の話 決勝の斎藤選手(制剛・国士館大卒)とは学生時代からのライバルで対戦成績はこれで2勝2敗。意地でも勝ちたかった相手だけにとても嬉しい。今年は母校(中央大)が見事に優勝してくれた。
今日は(江上と共に)そんな後輩達に後押しされた気持ちです。強化選手から漏れてしまったが、今年の講道館杯はV狙いで行く。世界選手権も意識したい。

【成績】

- 優勝 近藤秀作(日本道路公団)
- 準優勝 斎藤制剛(旭化成工業)
- 第3位 廣川充志(セコム)
- 第3位 前田貴志(九州電力)

▽準々決勝

- 廣川 優勢勝ち 中嶋(日本道路公団)
- 斎藤 優勢勝ち 深川(日本道路公団)
- 近藤 払腰 久保木(総合警備保障)
- 前田 内股 堤(総合警備保障)

▽準決勝

- 斎藤 優勢勝ち 廣川
- 近藤 優勢勝ち 前田

▽決勝

- 近藤 優勢勝ち 斎藤

男子81kg級

秋山、安定したうまい 試合運びで初優勝

最もエントリー数の多いこの階級で決勝に勝進んだのは、社会人1年目の坂本(ダイコロ)と、6月全日本実業団体対抗大会優勝(二部)の立て役者である秋山(平成管財)の二人。

坂本は右、秋山は左組みを狙い激しい闘志で攻防を開始。坂本の内股に対し、秋山は返しを狙いながら小内、払腰で攻める。両者の激しい息遣いが報道席にまで達する。3分過ぎ、秋山の左足払いに坂本横転するも腹ばいで難を逃れる。さらに坂本の内股、秋山の払腰、巴投など双方必死の攻防あるもポイントにはならず時間となり判定。旗は3-0で秋山が初優勝。秋山の終始バランスのよい、うまい試合運びが目立った。

3位には、過去2回優勝のベテラン加美(合同産業)を豪快な大外刈(準々決勝)で倒した大角(京葉ガス)と、昨年3位のシード鈴木(旭化成)などを破った丸山(セコム)がこれも初の入賞。



優勝した秋山選手
(平成管財)

秋山の話 もちろん優勝だけを考えていた。初戦の中田戦が大きな山だったが、運が後押ししてくれた。学生時代(近畿大)は体重別(正力杯)2位の実績がある(関西優勝2回)。得意技は足技、巴投げ。競つた時にあと1回の技を掛けられることと、スタミナが勝負だと思ふ。

【成績】

- 優勝 秋山成勲(平成管財)
- 準優勝 坂本道人(ダイコロ)
- 第3位 大角 実(京葉ガス)
- 第3位 丸山昌孝(セコム)

▽準々決勝

- 大角 大外刈 加美(合同産業)
- 坂本 優勢勝ち 平岩(セコム)
- 丸山 袈裟固 五十嵐(セコム上信越)
- 秋山 優勢勝ち 尾辻(日本道路公団)

▽準決勝

- 坂本 優勢勝ち 大角
- 秋山 大外返し 丸山

▽決勝

- 秋山 優勢勝ち 坂本

男子73kg級

「新田、実力発揮し 三連覇の偉業成る」

2年前の決勝戦の再現となった二連覇中の新田（京葉ガス）と一昨年準優勝、昨年第3位の吉岡（新日鐵・広畑）との実力者同士の決勝戦。

新田は得意の内股が冴え4回戦まで一本勝ち、準々決勝と準決勝は僅差判定に持ち込められたものの順当な決勝進出。一方吉岡も一本勝ち、準々決勝は2回戦ながらも危なげなく勝ち上がる。48秒新田掬い投げで吉岡を大きく抱き上げそのまま落とすが、吉岡ひねってかわす。その時、新田頭部を強打し、暫く立ち上がれず場内シーンとなる。医師も駆けつけたが事なきを得、試合再開。1分11秒、新田右大外刈りで技有り奪う。防戦の吉岡1分30秒指導を受ける。その後膠着状態が続き、2分、新田指導、吉岡注意の宣告。以降は新田攻撃を再開。掬い投げを中心に吉岡を攻め続け、堂々の三連覇達成。吉岡今年も新田の前に悲願実らず。

準決勝戦には得意の寝技で3試合一本勝ちで勝ち進んだ今春卒業の松永（日体大柔友会）が優勝新田に善戦及ばず破れたものの堂々の第3位入賞。一方、向井（自衛隊体育学校）が好調に一本勝ちを重ね初の第3位入賞を果たす。



優勝した新田選手
(京葉ガス)

新田の話 体と気持ちをどうまとめめるかを一番留意した。今回はキューバナシヨナルチームとの練習など、格上の選手とやったことが良い経験になった。質量とも良く練習できたと思う。まだまだ体力は落ちてないと思ってる。

昨年は講道館杯で惨敗し悔しい思いをした。焦りもあった。あの経験を糧に今年が良い結果を出したい。

【成績】

優勝 新田雅史(京葉ガス)

準優勝 吉岡正人(新日鐵広畑)

第3位 松永 晃(日体大柔友会)

第3位 向井孝之(自衛隊体育学校)

▽準々決勝

○新田 優勢勝ち 寺井(東京消防庁)

○松永 上四方固 工藤(日本道路公団)

○吉岡 優勢勝ち 岩本(ダイコロ)

○向井 優勢勝ち 弘中(自衛隊体育学校)

▽準決勝

○新田 優勢勝ち 松永

○吉岡 優勢勝ち 向井

▽決勝

○新田 優勢勝ち 吉岡

男子66kg級

「新人 小室初陣を飾る」

今春筑波大卒業の小室（総合警備保障）はすべて寝技で勝負を決め決勝進出。一方、昨年一昨年と第3位に甘んじた石川（東芝）は内股、大外刈り、払腰と大技を駆使し勝ち上がった。共にすべて一本勝ち同士の好一番。

試合開始まもなく、小室巴投げを仕掛けるが、石川難なく捌く。41秒両者に指導。1分過ぎ小室再び巴投げをはなつが、石川うまくかわす。1分24秒石川右払腰に小室大きく浮くが残す。2分小室肩車を試みるも決まらず。2分47秒、石川の右内股が崩れ寝技に移行するも「立て」の宣告。その後、石川右足払いで何度も小室を牽制するが決め手にはならず。残り15秒小室巴投げ決まらず、時間切れ寸前タックルに行き、石川につぶされた所でブザー鳴る。旗判定は主審は白、石川に、両副審は赤、小室に上がり、微妙な一戦を小室が制して初陣を飾った。

準決勝は昨年の準優勝大西（明送）を得意の送襟絞めで破って勝ち進んだ中村（京葉ガス）が初の第3位入賞。一方、接戦をものにして勝ち上がった強豪南條（ダイコロ）が一昨年の準優勝以来の第3位入賞を果たす。



優勝した小室選手
(総合警備保障)

小室の話 決勝戦は自分でも負けていたと思うので優勝したという実感があまりない。もちろん初出場優勝を狙ってきたので、結果を出せたことはとても嬉しいが。南條（元寿）先輩と決勝戦をやったかった（出場は今年が最後と聞いていたので）。

（来年の）世界選手権へチャレンジ出来るよう頑張りたい。

【成績】

優勝 小室宏二(総合警備保障)

準優勝 石川正樹(東芝)

第3位 中村範政(京葉ガス)

第3位 南條充寿(ダイコロ)

▽準々決勝

○中村 優勢勝ち 青柳(東京消防庁)

○小室 袖車絞 金ヶ江(新日鐵広畑)

○南條 優勢勝ち 小見川(総合警備保障)

○石川 払腰 飛田(自衛隊体育学校)

▽準決勝

○小室 袖車絞 中村

○石川 内股 南條

▽決勝

○小室 優勢勝ち 石川

男子60kg級

「石井、社会人のスタートを優勝で飾る」

今年社会人の石井（塩谷建設）は準々決勝で昨年3位の松田（近畿通関）、準決勝では昨年優勝の漆畑（東芝）を破つての決勝進出。対するは2年連続で決勝に進出するも、いずれも準優勝に甘んじてきた吉岡（自衛隊体育学校）。

石井は闘志満々、はじめの合図とともに左右の背負投で攻め、開始20秒、低い姿勢からの左背負投が決まって技あり。さらに連続しての石井の攻撃に、吉岡は防戦を余儀なくされて指導をとられる。その後次第に吉岡も攻撃のリズムをつかみ出し、1分30秒、組み際の右小外掛で効果。さらに続いて小内刈で効果を取り、大いに盛り返す。その後は双方やや動きが乏しくなり2分30秒石井に指導、吉岡に注意が与えられそのまま時間となり石井が初優勝を飾る。吉岡はまたも涙を飲んだが、3年連続の決勝進出は立派。昨年および平成9年の過去2回優勝の漆畑は準決勝で石井の肩車に涙を飲んで2連覇を逃した。また新社会人の清水（平成管財）が健闘よく3位に入賞した。



優勝した石井選手
(塩谷建設)

石井の話 狙い通り初出場で優勝できて嬉しい。良い試合が出来たと満足している。取り敢えずは国体で地元優勝に貢献したい(開催地富山の先鋒として出場)。
 昨年は講道館杯で結果をだせなかった。これからは一戦一戦堅実に勝ち進んで上位を狙いたい。

【成績】

- 優勝 石井一行(塩谷建設)
- 準優勝 吉岡博之(自衛隊体育学校)
- 第3位 漆畑 健(東芝)
- 第3位 清水義光(平成管財)

▽準々決勝

- 漆畑 大内刈 上野(セコム)
- 石井 優勢勝ち 松田(近畿通関)
- 清水 優勢勝ち 遠嶋(総合警備保障)
- 吉岡 優勢勝ち 関口(総合警備保障)

▽準決勝

- 石井 肩車 漆畑
- 吉岡 優勢勝ち 清水

▽決勝

- 石井 優勢勝ち 吉岡

男子22歳未満

「19歳植原、6試合全て一本勝ちで初優勝」

高校出身の新進気鋭が激突する、言わば全国区への登龍門とも言えるこのクラスは、178cmの浅見(秋元道場110kg)と165cmとやや小柄な植原(日本道路公団100kg)の対戦となった。

浅見の右小外、内股に対し、植原は右大内、背負、左釣込腰などで反撃する。開始1分、場外際でもつれたところを植原が返し技で効果を先取。植原の連続しての攻めに浅見は守勢になり1分40秒指導がいく。2分過ぎ、植原の左背負投に浅見大きく舞って有効。さらに植原の飽くなき攻撃は続き、2分15秒浅見に注意。そして2分30秒、植原の左小内刈が見事に決まって一本。この日の植原は6試合全てを一本勝ちで納め、初優勝に花を添えた。
 昨年準優勝でシードされた山田(セコム)は準決勝で浅見の掬い投げに敗れ悲願ならず3位。岩松(コスモ警備保障)は優勝の植原に腕ひしぎ十字固に敗れたとはいえ、それまでの4試合すべて一本勝ち一本勝ちは立派、堂々の第3位。



優勝した植原選手
(日本道路公団)

植原の話 優勝は全く考えてなかったが、とても良い内容で戦えた(6試合全て一本勝ち)。本当に嬉しいです。高校時代(宮崎日大)、インターハイ・ベスト8メンバー(昨年)でした(九州総体で優勝)。大学へ行きかけたが親に苦労させたくなかったので就職を選んだ。得意技は背負いと袖釣ります。先のことほまだ考えていませんが、これからも一生懸命頑張ります。尊敬する石井(一行)先輩(宮崎日大)も優勝されてとても嬉しい日になりました。

【成績】

- 優勝 植原良太(日本道路公団)
- 準優勝 浅見伸也(秋元道場)
- 第3位 山田大樹(セコム)
- 第3位 岩松三徳(コスモ警備保障)

▽準々決勝

- 山田 優勢勝ち 江森(自衛隊体育学校)
- 浅見 腕挫十字固 網谷(塩谷建設)
- 植原 背負投 楠見(旭化成)
- 岩松 内股 相牟田(自衛隊体育学校)

▽準決勝

- 浅見 掬い投 山田
- 植原 腕挫十字固 岩松

▽決勝

- 植原 小内刈 浅見

女子78kg超級

大阪同士の対決を制し、柳花が二連覇

昨年、世界選手権英国代表のカーリーナ・ブライアント（ダイコロ）を破って初優勝した柳花（ダイコロ）に対して、木屋（ミキハウス）は初の決勝進出。柳花は左、木屋は右での組み手争いでスタート。両者牽制し合って32秒、早くも両者に指導。その後、柳花が体落をかけて崩れたところを木屋が上から寝技に攻めるも決まらず。互いに引き手争いから2分35秒、柳花が木屋の小外を返して効果を先取。木屋も払腰などみせるが、3分10秒、柳花の払腰に木屋たまたらず横転して技有。さらに3分35秒柳花が払腰で効果を取り、そのまま袈裟固めに入る。万事休すかとも思われたが木屋は力を振り絞ってよく返し、解ける。そのまま時間になり柳花の2年連続優勝が決まる。篠田（十全会聖明病院）と保坂（塩谷建設）が初の3位入賞。



優勝した柳花選手
(ダイコロ)

柳花の話 練習で腰と首を痛め、練習不足で1回戦から息が上がってしまっただけに、優勝はびっくり。応援の皆さんに励まされて最後まで頑張れました。（決勝の）木屋さんとは相性が良くなく、最後に寝技を返された時はヒヤリとしました。

【成績】

優勝 柳花美鈴(ダイコロ)

準優勝 木屋好絵(ミキハウス)

第3位 篠田玲子(十全会聖明病院)

第3位 保坂裕子(塩谷建設)

▽2回戦

○柳花 大外返 徳田(コマツ)

○篠田 上四方固 空田(東洋観光)

○保坂 優勢勝ち 妹尾(タカメディカル)

○木屋 横四方固 岩永(十全会十全病院)

▽準決勝

○柳花 優勢勝ち 篠田

○木屋 優勢勝ち 保坂

▽決勝

○柳花 優勢勝ち 木屋

女子78kg級

18歳の新人 吉田快挙成る

苦勞して勝ち上がった今春柏高校卒業の吉田(住友海上)と順調に勝ち進んだ栗原(コマツ)の初優勝をかけての決勝戦。序盤から吉田積極的に栗原を攻める。栗原、吉田の攻めに場外際に大きく背中をつく場面あるも場外に救われる。その後も吉田優勢に試合を進める。2分5秒、場外際に吉田、左足を飛ばして鋭く刈り込んだ右大内刈りに栗原その場に仰向けに倒れた。間髪いれず主審の右手大きく上がり一本。初出場のあどけなさの残る18歳吉田、うれしい初優勝の快挙を成し遂げた。



優勝した吉田選手
(住友海上)

吉田の話 新人優勝は意識していたが、練習も調子良くなかった。技もまだまだチグハグ。春に高校(市立柏)を出たばかりで社会人になった戸惑いがあったかも知れない。次はジュニア体重別で優勝を狙いたい。昨年のインターハイV2を決めた大将でした。

【成績】

優勝 吉田亜沙美(住友海上)

準優勝 栗原美幸(コマツ)

▽1回戦

○吉田 優勢勝ち 時津(綾羽)

○栗原 出足払 加古(三菱自動車名古屋)

○佐藤 払腰 新田(タカメディカル)

▽準決勝

○吉田 優勢勝ち 上野(肥後銀行)

○栗原 優勢勝ち 佐藤(ミキハウス)

▽決勝

○吉田 小外刈 栗原

女子70kg級 “中市、4年目の悲願、初優勝”

平成9年の66kg級(旧制度)に続いて2度目の決勝進出の中市(ミキハウス)と、3年連続で決勝進出の貝山(住友海上)、いずれも初優勝をかけての対決となった。

貝山には今回こそその気迫がみなぎり、2階の住友海上応援席もその意を解して、盛大な応援を送る。貝山、左内股から崩して寝技で攻める。さらに貝山の攻勢が続き、1分過ぎそれまで防戦の中市に指導がいき貝山がポイントを取った。ところがそのすぐ後、中市が右の背負投をかけ、もつれたところをここぞと寝技に攻める。中市うまく足を抜いて横四方固にはいると、がっちり決まって一本。中市が逆転で念願の初優勝に輝いた。貝山はまたも涙を飲み、みたび準優勝に甘んじることとなった。

山本(十全会聖明病院)と福田(セコム)は今年入社の新鋭、3位入賞で今後の活躍が期待される。



優勝した中市選手
(ミキハウス)

中市の話 合宿疲れ(現在もキューバナショナルチームと練習)でヘトヘトでした。先に指導を取られてまずいと思いましたが、終盤の展開はラッキーでした。天尾さんも欠場したし…。ベテランと言われますが、まだまだ心身共に若いんです。全国女子体重別は頑張ります。

【成績】

- 優勝 中市陽子(ミキハウス)
- 準優勝 貝山仁美(住友海上)
- 第3位 山本亜紀子(十全会聖明病院)
- 第3位 福田美奈子(セコム)

▽準々決勝

- 山本 不戦勝 天尾(コマツ)
- 中市 優勢勝ち 石橋(総合警備保障)
- 福田 袈裟固 小取(コマツ)
- 貝山 優勢勝ち 小出水(西日本警備保障)

▽準決勝

- 中市 体落とし 山本
- 貝山 優勢勝ち 福田

▽決勝

- 中市 横四方固 貝山

女子63kg級

“南、僚友を逆転で制して 二連覇達成”

ミキハウスの僚友対決の決勝戦。

昨年優勝の南も、今春天理大卒業の新鋭植田も、共に接戦を制しての決勝戦進出。報道席の後方から植田に天理大の恩師藤猪全柔連強化委員の声援が飛ぶ中、植田序盤をリードする。42秒、南に指導。その後長身南、大外刈り、払腰で攻めに転じるが効果なし。植田、大腰で反撃するも南残す。中盤以降両者攻め合うものの決め手を欠く。そのまま時が経過し、終了となると思われた5秒前、南起死回生の左大内刈りに植田半身で倒れ、有効が宣告される。南苦しい戦いを乗り越えうれしい二連覇を成し遂げる。

3位には、3試合を勝ち抜いた柳田(ダイコロ)と一昨年第3位、昨年準優勝の赤岡(ミキハウス)が入賞。いずれも準決勝戦では優勢負けで涙を飲んだ。



優勝した南選手
(ミキハウス)

南の話 優勝は何となく狙っていたが、合宿疲れで体調が良くなり、先に指導を取られてヤバイと思った。今日は取って取られての悪いパターンが続いた。植田さんとは(同じ所属ながら)ほとんど練習では対戦してない(公式戦では何度も対戦してる)。

【成績】

- 優勝 南 千草(ミキハウス)
- 準優勝 植田裕子(ミキハウス)
- 第3位 柳田恭子(ダイコロ)
- 第3位 赤岡志保(ミキハウス)

▽準々決勝

- 南 優勢勝ち 海野(総合警備保障)
- 柳田 優勢勝ち 篠原(塩谷建設)
- 植田 優勢勝ち 藤本(ダイコロ)
- 赤岡 優勢勝ち 岩藤(住友海上)

▽準決勝

- 南 優勢勝ち 柳田
- 植田 優勢勝ち 赤岡

▽決勝

- 南 優勢勝ち 植田

女子57kg級

“新人岡崎、強豪を接戦で制し栄冠に輝く”

昨年優勝の植田（ダイコロ）を接戦の末破った岡崎（ミキハウス）に対するは、同じく昨年準優勝の茂木（住友海上）を下した窪田（コマツ）の強豪同士の決勝戦。序盤は両者組み手争いに終始し、互いに組み合わず1分2秒に両者指導。その後、岡崎積極的に窪田の奥襟を取りに行き、左の内股、左大内刈り、背負投げ、体落とし、と攻め続ける。3分8秒、反撃を試みた窪田の左払腰をつぶし、寝技で攻める。ポイントは奪えなかったものの終始攻め続けた岡崎に旗が3本上がった。岡崎堂々の初優勝を遂げる。

3位には、昨年優勝の植田（ダイコロ）と赤野（セコム）が入賞した。



優勝した岡崎選手
(ミキハウス)

岡崎の話 五輪には出場できなくて落ち込んだ時期もあったが、立ち直る良いきっかけになった。初出場優勝は狙っていた。しかし、今日は自分の課題をどこまで克服できるか留意した。その点ではまだ不満が残った。秋は今も埼玉大で練習させてもらっている。秋の体重別は優勝を狙っていききたい。

【成績】

優勝 岡崎綾子(ミキハウス)

準優勝 窪田雅子(コマツ)

第3位 植田庸子(ダイコロ)

第3位 赤野仁美(セコム)

▽2回戦

○植田 払腰 伊藤(西日本警備保障)

○岡崎 優勢勝ち 有櫛(コマツ)

○赤野 優勢勝ち 大塚(西日本警備保障)

○窪田 優勢勝ち 茂木(住友海上)

▽準決勝

○岡崎 優勢勝ち 植田

○窪田 優勢勝ち 赤野

▽決勝

○岡崎 優勢勝ち 窪田

女子52kg級

“横澤沙恵、階級下げて初優勝飾る”

昨年優勝の猿渡（ミキハウス）を破った横澤沙恵（タカメディカル）と、過去2回優勝の実力者の永井（ダイコロ）を破った勢いで昨年（準優勝）の雪辱を果たしたい横澤由貴（住友海上）の対戦となった。

開始28秒、タカメディカルの横澤が左組みとみせて、右の低い背負投で効果を取った。その後左内股、払腰、右背負で攻める。一方、住友海上の横澤も右の小内、大内、左の一本背負など多彩な攻めを見せるが及ばず。時間となって、横澤対決はタカメディカルの横澤が初優勝。昨年の57kg級から今年52kg級に階級を下げるなど努力が実を結んだ。住友海上の横澤は昨年が続いて、決勝で涙を飲む。

猿渡は準決勝で優勝の横澤（タカメディカル）に判定で敗れ3位、2年連続優勝ならず。18歳の新鋭、野尻（コマツ）は1、2戦、いずれも寝技で一本勝ちするも、準決勝では横澤（住友海上）に判定で涙、3位に甘んじたが将来が楽しみ。



優勝した横澤選手
(タカメディカル)

横澤の話 昨年は57kg級に出場し、1回戦で敗れて悔しかった。今年は体重を下げ、最初から優勝を狙った。プレッシャーを感じることなく順当にやれたと思う。次は国体で頑張ります。個人でももう一歩上を目指したい。

【成績】

優勝 横澤沙恵(タカメディカル)

準優勝 横澤由貴(住友海上)

第3位 猿渡夏子(ミキハウス)

第3位 野尻麻美(コマツ)

▽準々決勝

○猿渡 優勢勝ち 西(日本製薬)

○横澤 不戦勝

○野尻 上四方固 坂井(トヨタ自動車)

○横澤 優勢勝ち 永井(ダイコロ)

▽準決勝

○横澤 優勢勝ち 猿渡(ミキハウス)

○横澤 優勢勝ち 野尻

▽決勝

○横澤 優勢勝ち 横澤

女子48kg級

真壁、実力を発揮し 2年連続4度目の優勝達成

昨年と同じく真壁（住友海上）と小田（ミキハウス）の決勝戦。試合前半戦は小田右背負投げで攻め、これを真壁崩して、寝技で攻める攻防が続く。中盤2分10秒、真壁得意の左小内刈りが飛び効果を奪う。そのまま寝技に移行し、真壁執拗に攻め続ける。しかし小田の絡んだ足を解けず「立て」の宣告。終盤小田挽回すべく右背負投げ、右大内刈りと反撃するも、真壁余裕をもってかわし、寝技で応戦。その攻防が続き試合終了となる。小田雪辱成らず2年連続の準優勝に甘んじる。実力の真壁、貫禄の二連覇。通算4度目の優勝は賞賛に値する。

3位には宮之原（ミキハウス）と小川（セコム）が入賞した。



優勝した真壁選手
(住友海上)

真壁の話 優勝は考えてなかったが、この大会で勝てないようでは。(五輪もアジア選手権も出られなくて)心の迷いが続き、練習不足でした。もう一度、秋の全国女子体重別へ向け、心と体を立て直したい。

【成績】

優勝 真壁友枝(住友海上)

準優勝 小田智子(ミキハウス)

第3位 宮之原まゆみ(ミキハウス)

第3位 小川絵里(セコム)

▽2回戦

○真壁 不戦勝 芳岡(東洋観光)

○宮之原 大外刈 牧野(綾羽)

○小川 優勢勝ち 三浦(タカメディカル)

○小田 優勢勝ち 村上(藤居酒造)

▽準決勝

○真壁 上四方固 宮之原

○小田 優勢勝ち 小川

▽決勝

○真壁 優勢勝ち 小田



女子78kg超級決勝 柳花袈裟固めで押えるが木屋逃れる



男子100kg級決勝 宗の大外刈見事に決まって「一本」



女子70kg級決勝 寝技で攻める中市

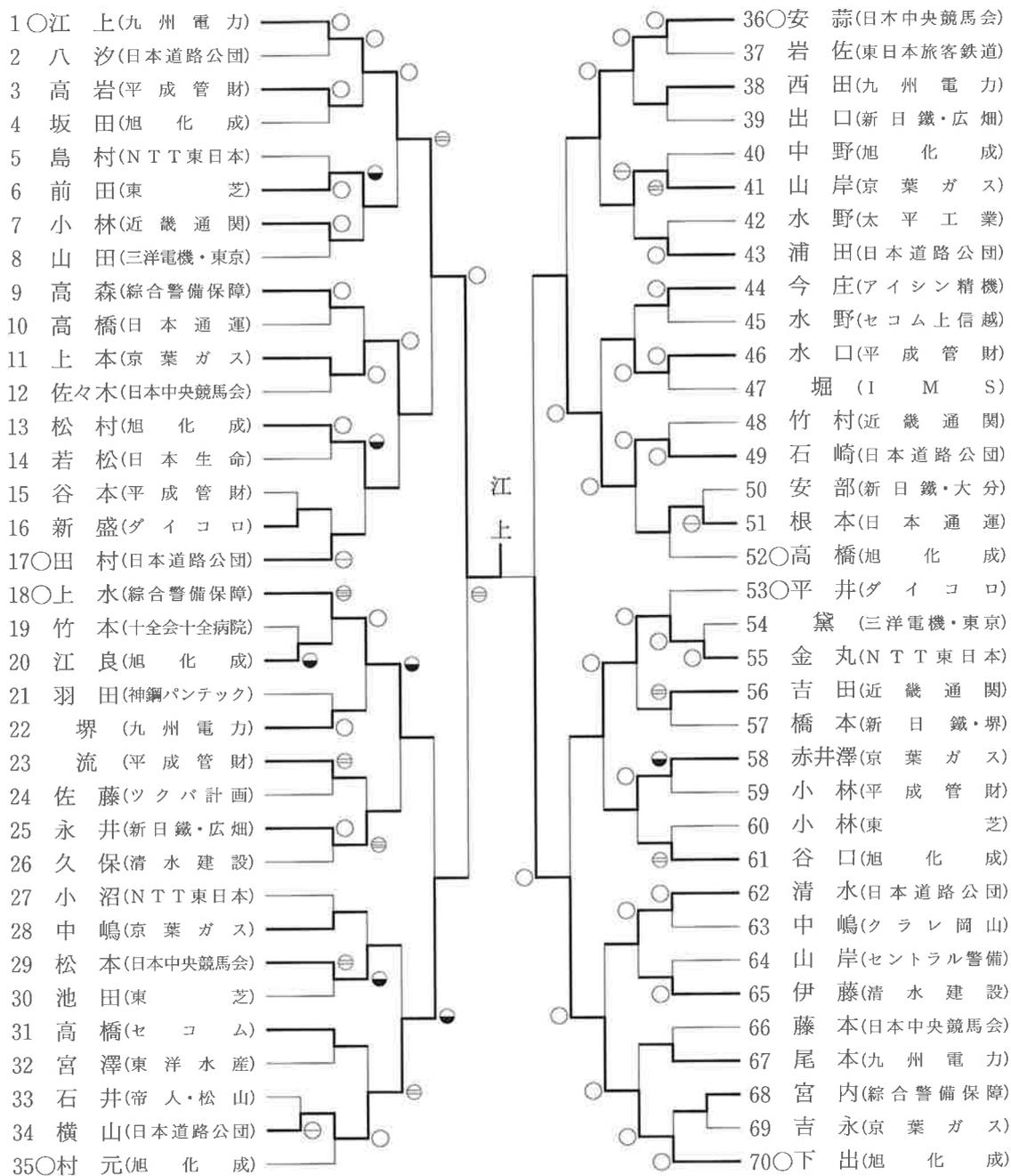


男子73kg級決勝 新田の大外刈「技有り」

熱戦風景

成績表

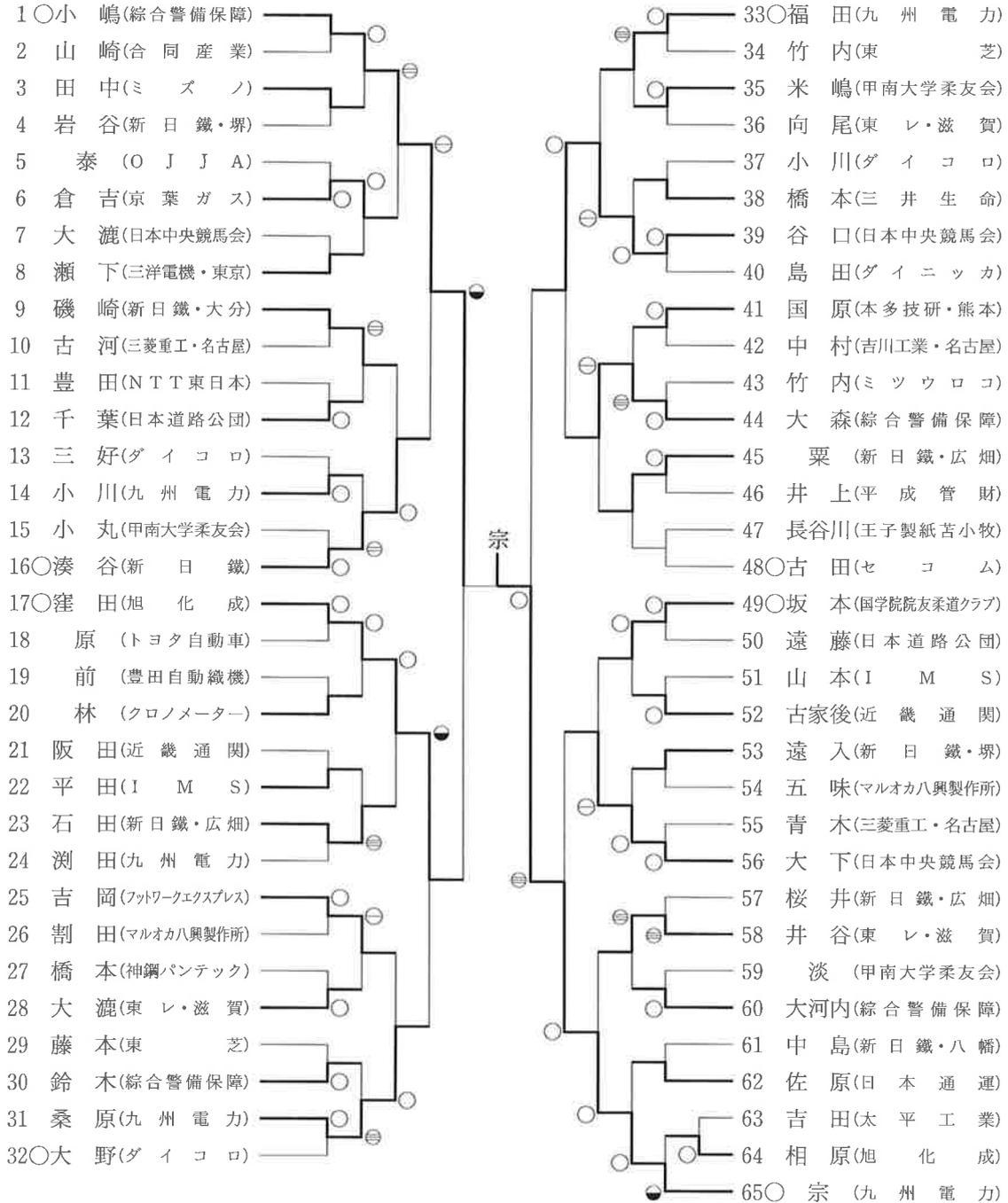
男子100kg超級(70名)



○印はシード選手

成績表

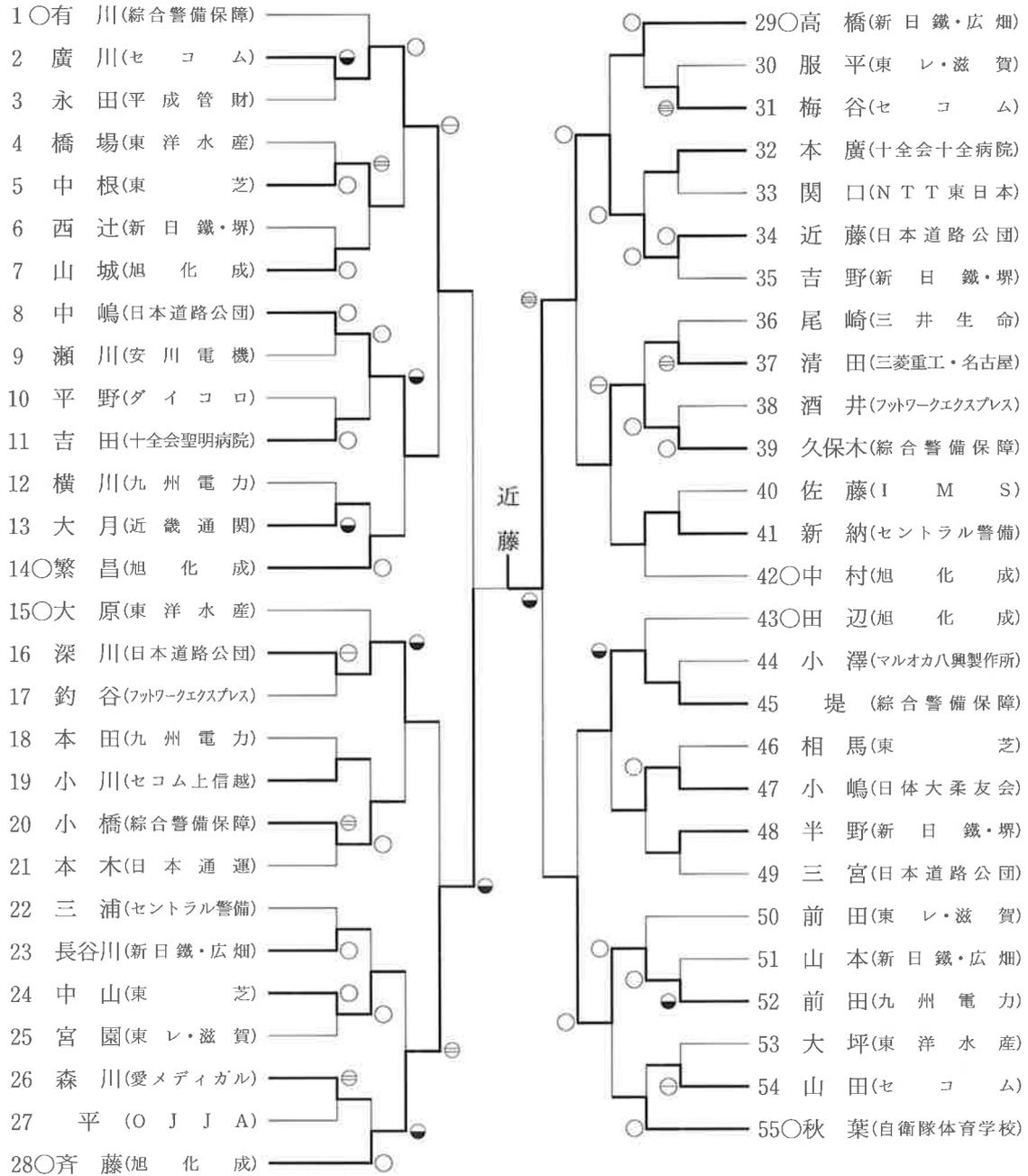
男子100kg級(65名)



○印はシード選手

成績表

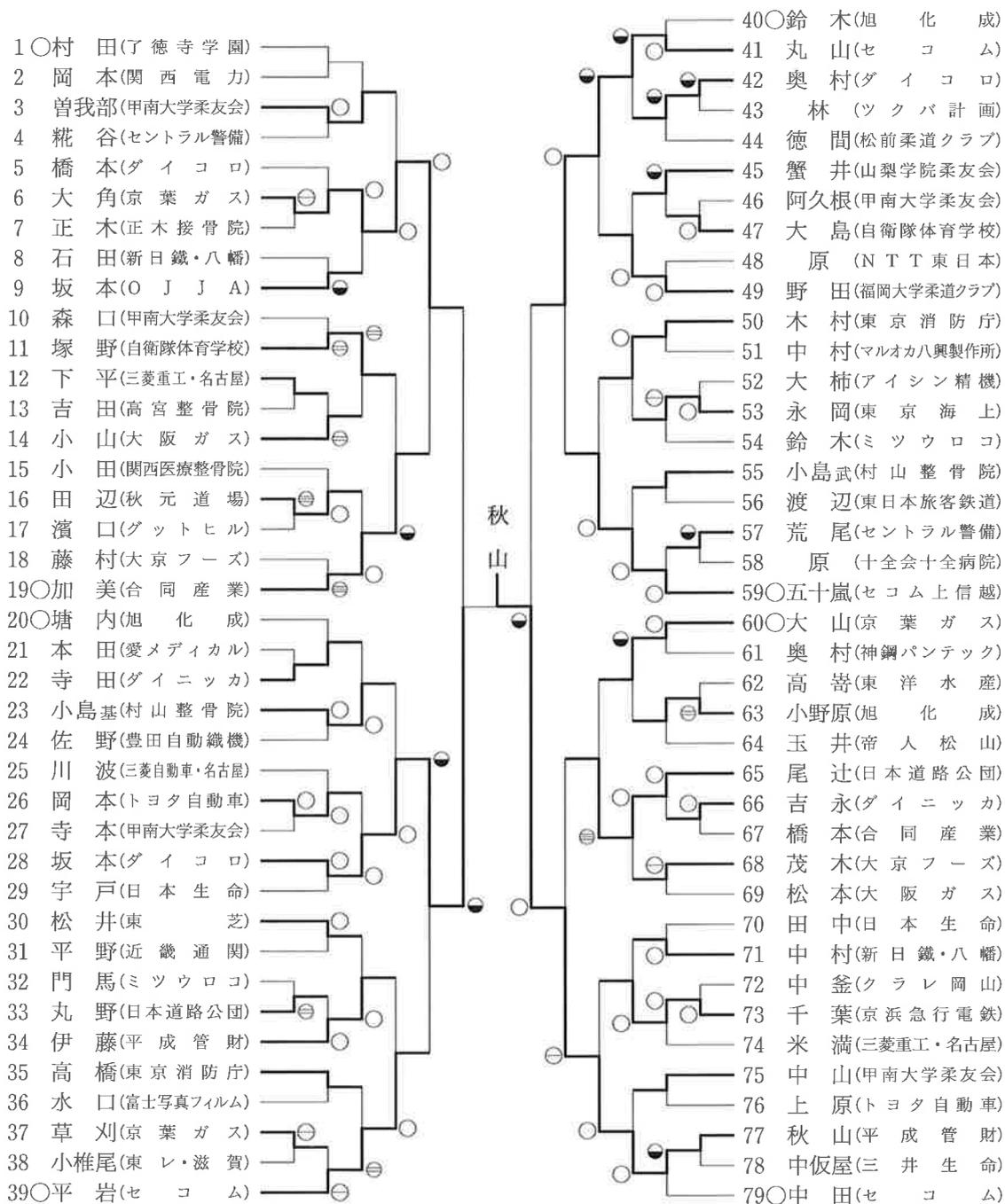
男子90kg級(55名)



○印はシード選手

成績表

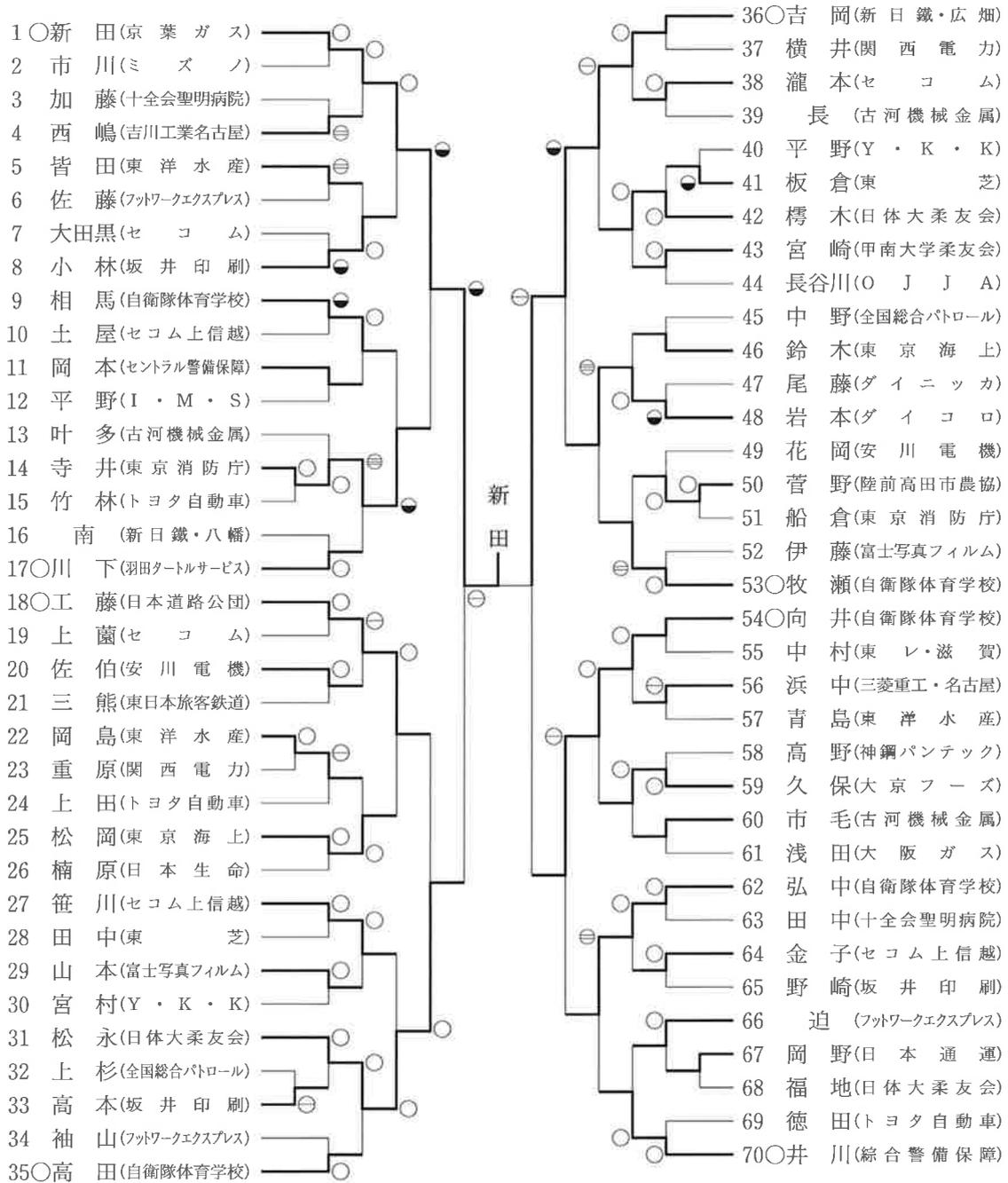
男子81kg級(79名)



○印はシード選手

成績表

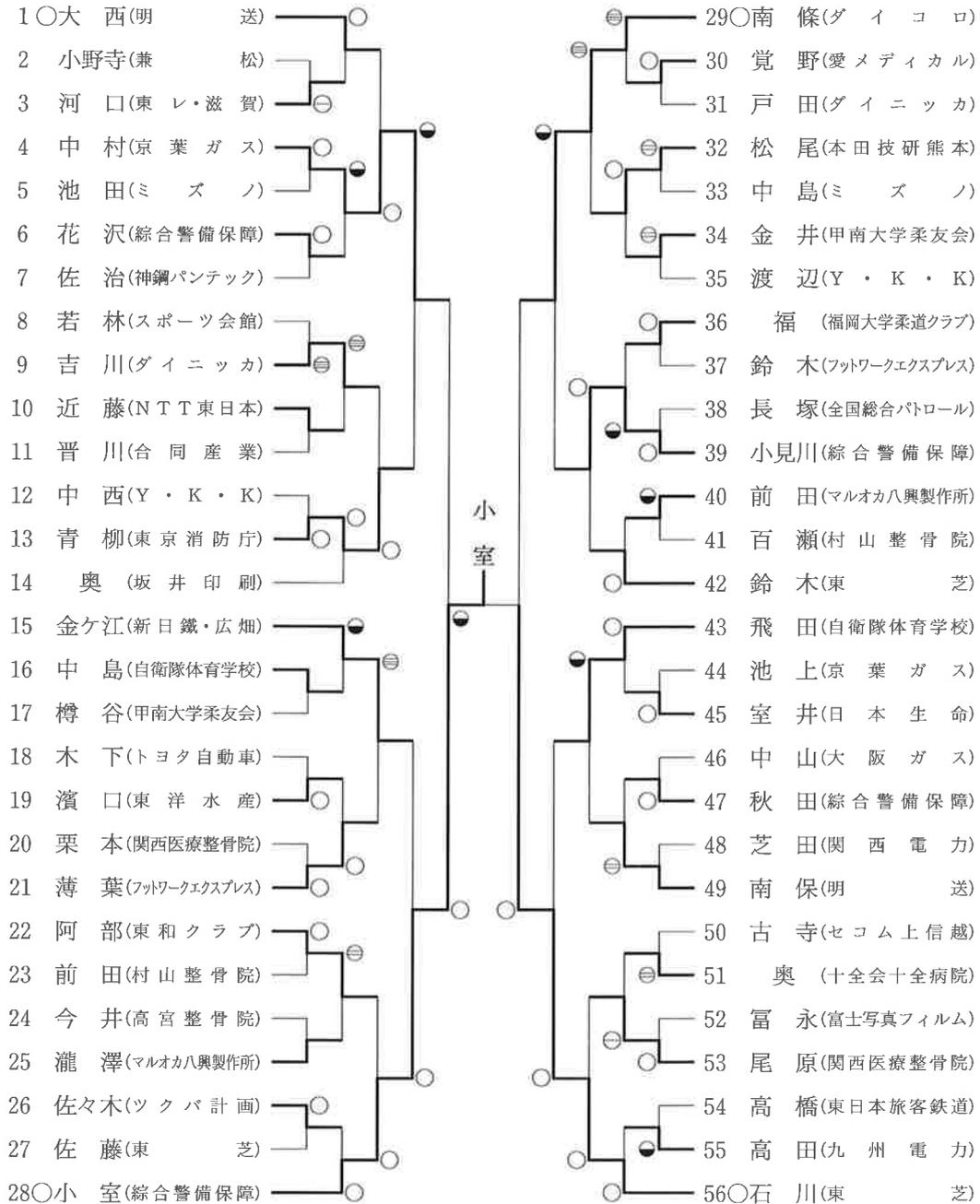
男子73kg級(70名)



○印はシード選手

成績表

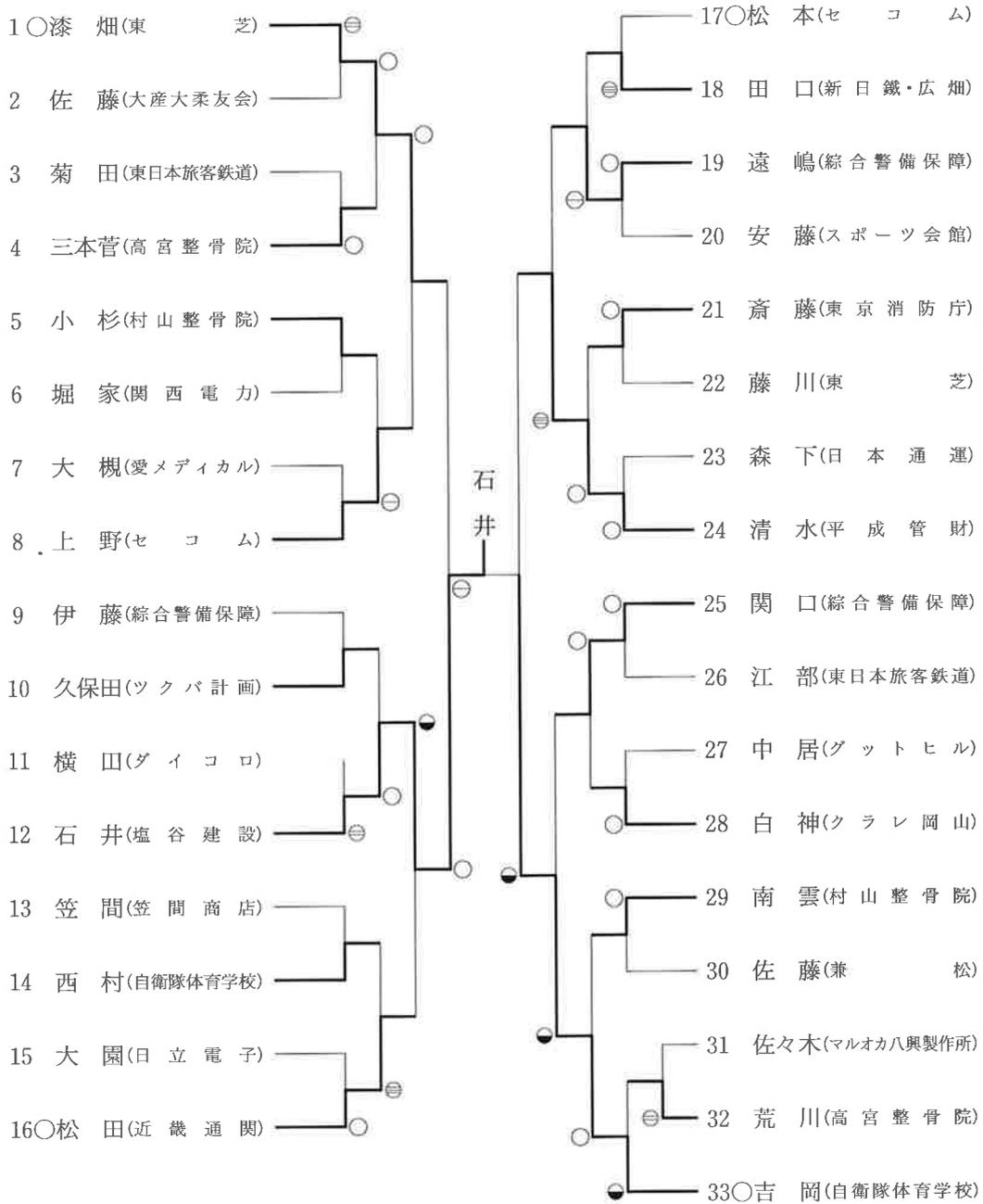
男子66kg級(56名)



○印はシード選手

成績表

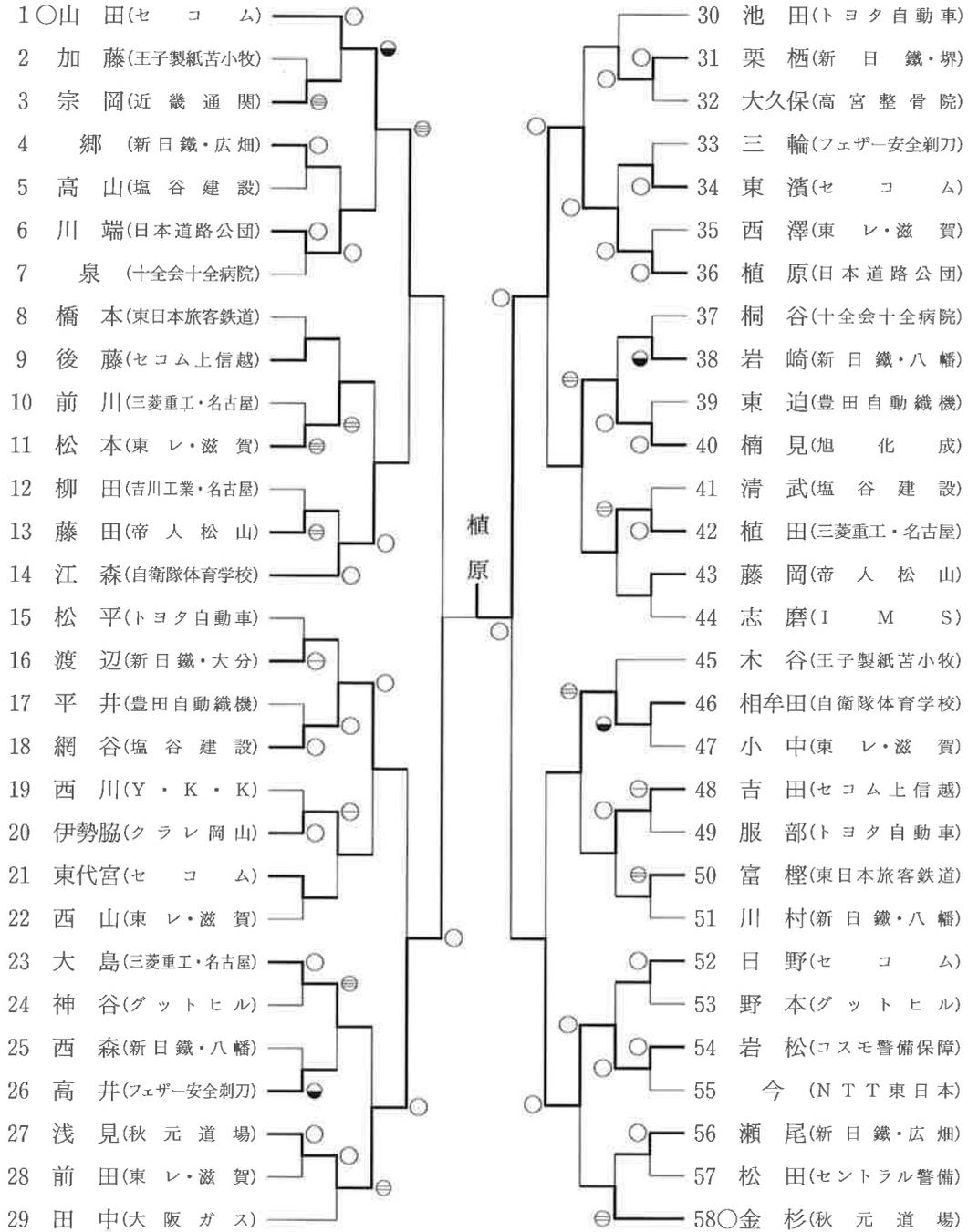
男子60kg級(33名)



○印はシード選手

成績表

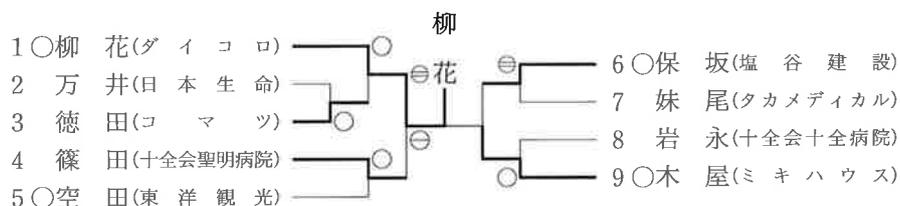
男子22才未満(58名)



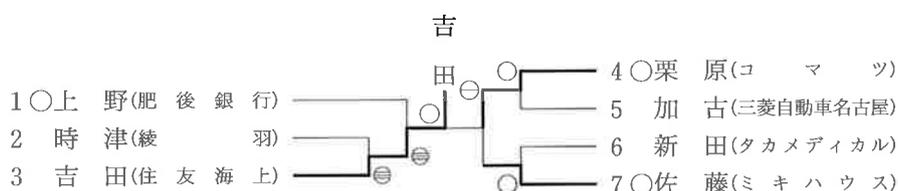
○印はシード選手

成 績 表

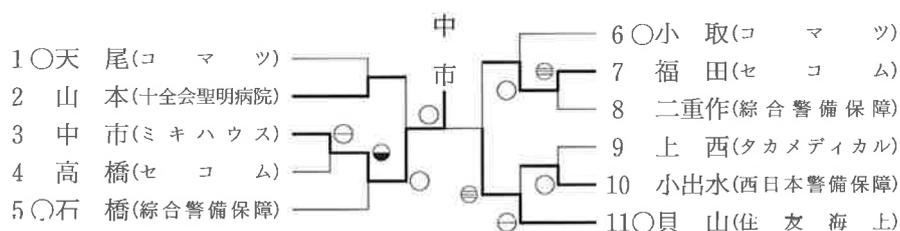
女子78kg超級(9名)



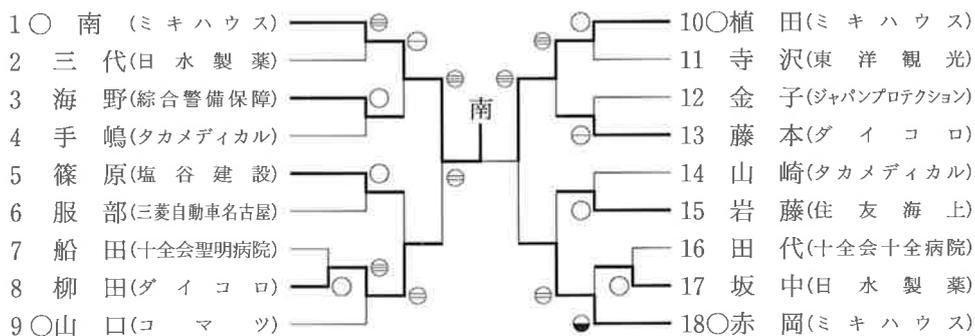
女子78kg級(7名)



女子70kg級(11名)



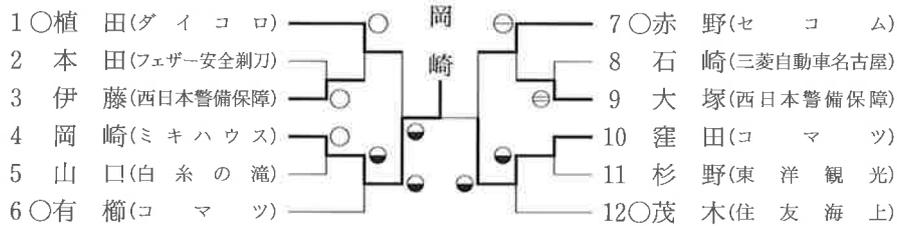
女子63kg級(18名)



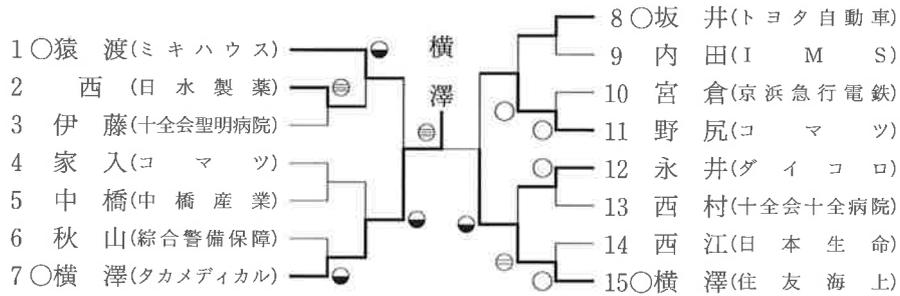
○印はシード選手

成績表

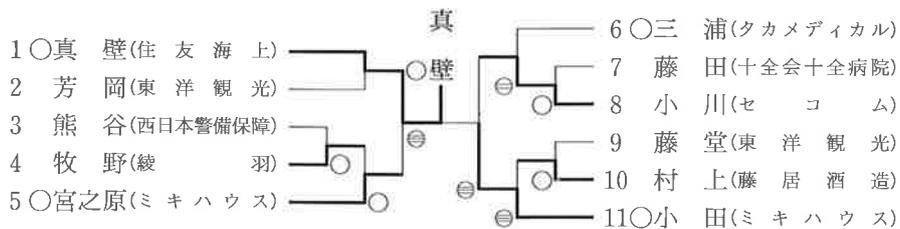
女子57kg級(12名)



女子52kg級(15名)



女子48kg級(11名)



○印はシード選手

「審判講習会」開催される

全日本実業柔道連盟「審判講習会」が、第一回7月15日(土)大阪・ミキハウススポーツスタジアム、第二回9月2日(土)東京・講道館において開催された。

これは、連盟所属の指導者・審判員及び現役選手の柔道に関する知識の向上と審判技術のレベルアップを目的としたもので、(財)大崎企業スポーツ事業研究助成財団の支援を受けて実施された。参加者は併せて約100名。

特に、今回は(財)講道館道場指導部長で日本柔道界の重鎮であられる醍醐敏郎先生に、柔道の歴史や技・審判規定の変遷等貴重な講義をいただくとともに、全柔連審判副委員長でシドニーオリンピックでも審判を勤められる小野沢弘史先生と、同じく全柔連審判副委員長でアジア柔連審判理事でもある川口孝夫先生という一流の講師陣に国際審判規定を詳しくご指導いただき、非常に有意義な講習会となった。

△講師及び内容▽

醍醐敏郎先生 (講道館指導部長)

・柔術の発生から講道館柔道の創始、審判規定の制定、技の名称等、現在までの移り変わりを時代を追ってわかりやすく解説された。

小野沢弘史先生 (全日本柔道連盟審判副委員長)

川口孝夫先生 (全日本柔道連盟審判副委員長)

・アジア柔連審判理事)
・国際柔道連盟試合審判規定の最新の解釈と模擬試合を行いながらの反則のポイント、礼法、ジェスチャー、主審・副審の役割等ひとつひとつ細かく解説された。



醍醐敏郎講師



川口孝夫講師



小野沢弘史講師



醍醐講師の話に聞き入る受講生



小野沢講師の指導風景



第1回講習会(ミキハウス)の参加者



川口講師の指導風景



(財)大崎企業スポーツ事業研究助成財団
竹野専務理事

発行日 2000年9月25日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 印刷 事務局長 岩田久和
 ダイコロ株式会社